

令和 5 年度附属図書館事業報告

2024 年3月

目次

1. 令和5年度の附属図書館重点施策	p.3
2. Vision1 教育	
(1) 新型コロナウイルス5類感染症移行後のサービス再開	p.4
(2) 北青葉山分館リニューアル開館	p.5
(3) 分館閉館時利用試行の実施	p.6
(4) 全学授業との連携	p.7
(5) 国立国会図書館視覚障害者等サービスの導入	p.8
3. Vision2 研究	
(1) APC支援事業	p.9
(2) 転換契約	p.10
(3) 学術情報流通推進室の設置	p.11
(4) 東北大学総合知デジタルアーカイブ事業	p.12
4. Vision3 社会共創	
(1) 令和5年度企画展「伊達騒動」	p.13
(2) SDGs展示	p.14
5. Vision4 経営革新	
(1) 自己点検・評価および外部評価の実施	p.15
(2) PRRLA総会で事例報告	p.16
(3) オレゴン大学図書館との連携	p.17
(4) 片平キャンパス図書グループの設置	p.18
(5) 「吾輩は羊羹好きな猫である」2万個突破	p.19

● 社会情勢の変化に即した図書館サービスの展開

- ・ 感染防止対策を状況に応じて行うとともに、主として地震を想定した防災対策を講じた上で、安心安全な学習・研究環境の提供に努め、大学の教育研究活動の維持・発展に寄与する。
- ・ 来館型と非来館型（オンライン）の両方のサービスを充実させる。
- ・ 留学生の来日増加に伴い、留学生コンシェルジュ活動を中心とした留学生支援を強化する。

● 学習・研究に必要な資料の充実

- ・ 本学の学習・研究支援に必要な資料（図書・雑誌・電子ブック・電子ジャーナル・データベース等）の充実に努める。

Vision 1 教育

● 学術情報のデジタル利用・オープンサイエンスの推進

- ・ Wiley社及びSpringer Nature社との電子ジャーナル転換契約パイロットプロジェクトを十分活用できるように円滑に運用するとともに、その効果の検証を行う。
- ・ 他大学・関連組織との連携を強化し、電子資料整備の最適化、オープンサイエンスの推進のための研究成果発信のいっそうの展開を図る。

● 「東北大学総合知デジタルアーカイブ」の整備

- ・ 国文学研究資料館のプロジェクトや当館の計画に基づき、古典資料のデジタル化を引き続き進める。
- ・ 学内の関連組織との連携により、学内全体のデジタルアーカイブシステムの構築を行う。
- ・ 学内デジタルアーカイブ計画を持続的に実行できるように、実施体制の整備を行う。

Vision 2 研究

● 附属図書館将来構想の検討

- ・ 大学を取り巻く環境や本学の状況も見据え、た上で、附属図書館の将来構想について検討する。

● 業務改善・人員配置の最適化

- ・ 引き続き図書管理業務集約等の業務改善を進め、附属図書館全体としての業務・人員配置の最適化を図る。
- ・ 「東北大学事務職員人事マネジメント基本方針」に基づき、図書系職員のキャリアパスについて検討する。
- ・ 自己点検評価及び外部評価を実施し、業務の改善を図る。

Vision 4 経営 革新

● 業務DX化の推進

- ・ 各種ツールの活用等により、業務の簡素化・効率化、利用者の利便性向上を図る。

● 東北大学特定基金「図書館のみらい基金」の有効活用

- ・ 基金への積極的な寄附の呼びかけを行うとともに、教育・研究支援、社会貢献を踏まえた使途を検討し、有効に活用する。

Vision 3 社会 共創

● 資料展示企画等の実施による社会への還元

- ・ 本学の所蔵資料をアピールできるような企画展示、イベント等を実施する。
- ・ 大学が関係する諸事業に協力する。

● オンラインの訴求力・波及力による広報展開

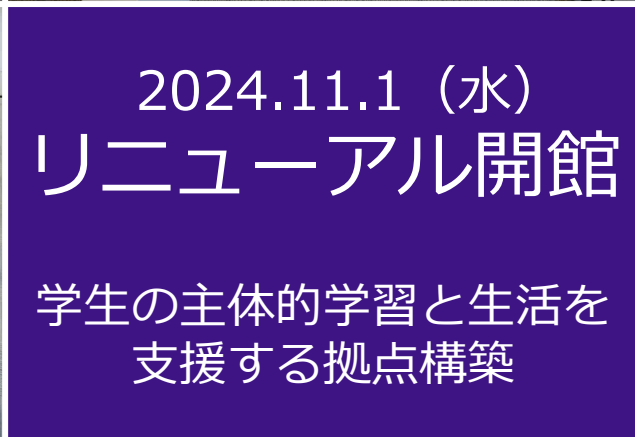
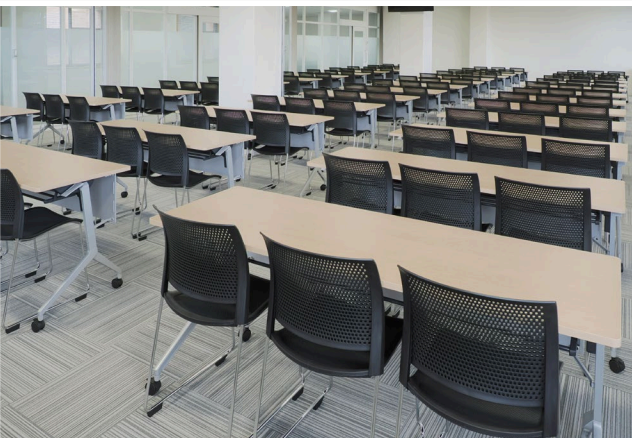
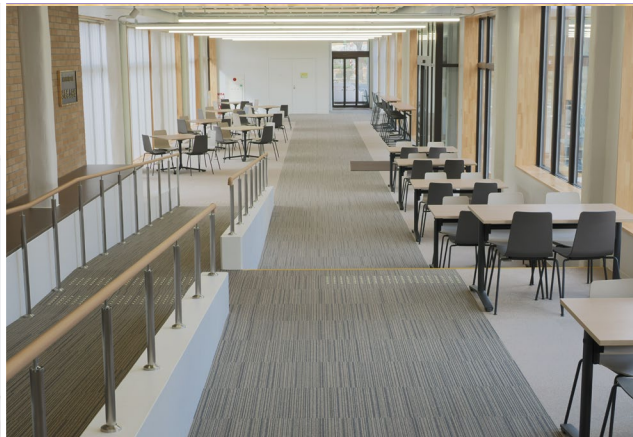
- ・ SNSの活用により、利用者へのタイムリーな広報や、学内外へ附属図書館の諸活動の積極的な発信を行う。

新型コロナウイルス感染症 5 類移行後のサービス再開

- 附属図書館では、東北大学行動指針（B C P）にあわせて、利用制限の緩和を図ってきました。
- 2023年5月の新型コロナウイルス感染症5類移行後、専門家の助言をいただきながら、イベントやグループ学習の利用制限を緩和しました。
- 本館では後期授業開始のタイミングに合わせ、コロナ禍前の利用条件にほぼ戻りました。

※オンライン対話需要増のため、グループ学習室②③は1人利用限定としています。





分館閉館時利用試行の実施

※詳細は報告事項8

- 各分館は、各キャンパス部局以外の部局所属者への閉館時利用の試行を開始しました（これまでは各キャンパスの部局所属者限定。例えば工学部生は農学分館の夜間利用は不可）。
- 令和4年度学生評議員「すべての学生がすべての分館を同じ時間に使えるようにしてほしい」（夜間や土日祝日は他キャンパスの学生は入館できない）との意見を受けて実施しているもので、令和6年度も試行を継続する予定です（一部審議中）。
- R5（2023）年度試行結果

分館名	令和5年度試行期間		申請者	夜間・休日等の 他キャンパス所属者 利用数 ※のべ数
医学分館	9/1 - 11/30 2/19 - 3/31	4.5ヶ月間	169人	479人
北青葉山分館	2/1 - 3/31	2ヶ月間	8人	2人
工学分館	6/1 - 3/31	10ヶ月間	166人	1,250人
農学分館	6/26 - 3/31	9ヶ月間	560人	農学分館 2,743人 コモンズ 1,741人

全学授業との連携

● 学問論【前期】

「レポート指南書」を教材にアカデミック・ライティングの基本を学ぶ

- ← 附属図書館作成の動画教材を提供しました
- 「学術情報の集め方」
 - 「図書の探し方」
 - 「雑誌論文の探し方」



● 中級アカデミック・ライティング【後期】

- 現代的課題に関する文献講読とレポート作成-
- 大学生に求められる「学術的」なレポート作成法や、それに欠かせない情報収集の方法の基礎と図書館活用法を学ぶ

- ← 図書館活用法の他、授業運営を全面的にサポートしました

**研究目的の意義は？
本論に説得力は？**

ベストセラーレポート本の著者
酒井 聡樹
生命科学研究科准教授

**読んでわくわくする？
興味を引く？**

Nature 等科学雑誌に論文多数
渡辺 正夫
生命科学研究科教授

**引用は適切？
指定書式で書いた？**

高等教育研究の専門家
串本 剛
高度教養教育・学生支援機構准教授

**先行研究に敬意をもって
取り組んでいますか？**

イギリス中世史の専門家
有光 秀行
文学研究科教授

**私たちが、
あなたのレポートに
コメントします!!**

国立国会図書館視覚障害者等サービスの導入

● 国立国会図書館視覚障害者等用データ送信及び録音資料等サービスを開始しました（令和5年12月27日）。

サービス内容	国立国会図書館が製作または収集した、視覚障害者等用資料（音声DAISYデータ、録音図書、点字図書等）を、本館経由で取り寄せて利用することができます。
利用対象者	視覚障害その他の理由により、通常の活字の印刷物の読書が困難な本学構成員
申込方法	① 利用者登録フォーム より、本館で当サービスを利用するための登録を行ってください。 ② MyLibrary の「文献複写・学外借用申込」より、ご希望の資料をお申し込みください。 コメント欄に「視覚障害者等用DAISY」「視覚障害者用録音図書」等とご入力ください。
データ資料の受け渡し	データ受け渡しには、USBメモリ、CD-R、DVDなどの外部記録媒体をご用意ください。
録音図書 点字図書	録音図書、点字図書の利用は本館内のみとし、館外貸出は行いません。
対象資料	「国立国会図書館サーチ 障害者向け資料検索」 よりご確認ください。
参考	<ul style="list-style-type: none"> ● 国立国会図書館 視覚障害者等用データ送信サービス ● 国立国会図書館 障害者向け資料の図書館間貸出 ● 障害者向け資料の統合検索・統合目録



令和5年度

東北大学 オープンアクセス 推進のための APC支援事業

Call for FY2023 Support Program for the Article Processing Charge (APC)

若手研究者に期間限定で

100%のAPC支援を実施!

100% subsidy for young researchers (Limited time offer).

若手以外の研究者も条件により

最大100%のAPC支援を実施!

Up to 100% subsidy for senior researchers, depending on several conditions.

本学の研究成果発信力強化及び若手研究者支援のため、国際的な学術ジャーナルに投稿される論文のオープンアクセス化にかかる経費の支援を実施します。支援プログラムは下記の2種類です。いずれかに該当する場合には、投稿論文をオープンアクセスで出版するためのAPC(Article Processing Charge)費用を支援します。

To enhance the University's capacity for disseminating research findings and supporting young researchers, financial assistance is provided for open access to articles submitted to international academic journals. There are two types of support programs available, and if either of them is applicable, the University will cover the Article Processing Charge (APC) fee for publishing the submitted paper with open access.

1 Wiley/Springer拡大プログラム

Wiley/Springer Expansion Program

**2 ハイインパクトジャーナル
投稿支援プログラム**

High Impact Journal Submission Support Program

詳しくは特設ウェブサイトをご参照ください。 学内限定

For details, please refer to the special website.

<https://sites.google.com/tohoku.ac.jp/apc-kakudai>


東北大学メールアドレスで
ログインしアクセス
してください

● R5年度APC支援事業スタート

研究成果発信力強化及び若手研究者支援のため、国際的学術ジャーナルに投稿する論文のオープンアクセス化にかかる経費 (= APC) 支援を実施しています。

以下の2つのプログラムがあります。

- ① Wiley/Springer/Elsevier
拡大プログラム
- ② ハイインパクトジャーナル
投稿支援プログラム

詳細は→

令和5年度

オープンアクセス推進のための APC支援事業

Call for FY2023 Support Program
for the Article Processing Charge (APC)

<https://sites.google.com/tohoku.ac.jp/apc-kakudai>
(学内限定)



Press Release

2023 年 10 月 12 日

報道機関 各位

国立大学法人東北大学

2024 年からエルゼビアとの転換契約を開始、
世界に向けた日本発研究成果のオープン化を加速

【概要】

東北大学は、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）^(注1)とエルゼビア（Elsevier B.V.）が合意した、論文のオープンアクセス（OA）出版に関する転換契約^(注2)提案に 2024 年から参加します。

世界最大の学術出版社との転換契約の開始により東北大学の研究成果である論文の OA 化が加速します。また、一般市民の皆様も研究論文に無料でアクセスすることが可能となるなど、オープンサイエンスの進展にも大きく寄与します。

東北大学では 2022 年のワイリー、2023 年のシュプリンガーネイチャーに続いて、2024 年 1 月からエルゼビアと契約することにより、世界の三大学術出版社のすべてと転換契約を結ぶことになります。

また東北大学では 2023 年 9 月から、これらの国際的な学術ジャーナルに投稿される論文の OA にかかる論文掲載料（APC）の支援事業も独自に実施しています。APC は著名なジャーナルほど高額となっており、特に若手研究者にとって、その費用負担が課題となっています。支援事業では若手研究者を中心に、一定の評価のあるジャーナルへの APC を支援しています。今回のエルゼビアとの転換契約によって、支援事業の対象が大幅に拡大し、研究者への支援をより充実させることができます。

東北大学は転換契約と APC 支援事業によって、若手研究者を中心とした研究者への支援と OA 推進を実現し、日本の大学の研究力の向上に貢献していきます。

研究

tohoku.ac.jp

● 転換契約

ジャーナル購読料のオープンアクセス（OA）出版料への転換をはかるもので、購読費用とAPCを包括した契約です。効果としては以下が期待されます。

- ①OA出版数拡大
- ②APC支払額軽減
- ③購読料削減

東北大学は国内大学の先陣をきり、転換契約に取り組んでいます。

2022年 Wiley 開始
2023年 Springer Nature 開始
2024年 Elsevier 開始

● 附属図書館に学術情報流通推進室を設置しました。

(令和5年度第2回附属図書館商議会 (R5.10.26開催) 承認)

室の目的は

「附属図書館長のもと、学術情報の流通の推進に係る調査研究及び企画を行い、並びに学術情報の流通に係る共通基盤を整備し、学術の発展に寄与すること」

● 教員のクロスアポイントメント

室にオープンアクセス連携チームを置き、チーフ・コーディネータをクロスアポイントメント制度で雇用しました。

(教員の活動)

- ・ 2023年 6月 : 16th Berlin Open Access Conferenceへの参加及び発表
- ・ 2023年12月～ : RUC連続セミナーのモデレータ担当
- ・ 2024年 2月 : AAAS Annual Meetingへの参加

現状と課題

附属図書館

狩野文庫、漱石文庫等

総合学術博物館

生物、古生物、鉱物標本

史料館

大学史料、歴史公文書類

災害科学国際研究所

自然災害資料・画像・動画

東北アジア研究センター

歴史資料、民俗資料

文学研究科

歴史資料、考古学資料等

各研究科・研究所

研究プロジェクト等

標本、試料、機器等

デジタル化・データ集約【図書館が支援】

- 各部局で個別に小規模なレガシーシステムを維持管理
→ システムを持ってない部局が存在
容量不足、国際規格非対応
大学としての発信力が不十分
- 膨大な未デジタル化・未公開資源
→ 重要な資源を死蔵
研究プロジェクト解散等による
休眠コンテンツもサルベージが必要

東北大学ブランドの
公開システム構築

東北大学総合知デジタルアーカイブ



【図書館が維持管理】

国際標準の技術を導入

画像の相互運用
国際規格デジタルコンテンツ
の恒久的識別子

ライセンス管理

システム連携

研究への
活用・
還元

例) 古文書記録・古地図を
構造化データにして、自然
科学データと共に解析
→ 自然災害研究
→ 疫病研究 etc.

「東北大学ビジョン2030」の
主要施策を実現20. 文化・学術資源の世界発信と
人文系研究分野の国際拠点化

本学所蔵資源の世界発信

日本の分野横断型デジタルアーカイブ統合ポータル
(国立国会図書館がシステム運用)

JAPAN SEARCH



- ・国内外から多数のアクセス
- ・国内外のデジタルアーカイブと連携

新たな人文知の拠点形成

人文学者のリサーチクエスト
を大規模データ解析に応用

従来型の人文学研究

データ駆動型研究

過去のビッグデータを統合解析
するための基盤技術の研究

文理融合の総合知の創出・活用

R5年12月サーバー設置済。現在はインターフェース、メタデータ項目の調整、データアップロード等の作業中です ※正式公開はR6年度を予定しています

令和5年度企画展「伊達騒動」

● 4年ぶりの企画展対面開催

令和5年10月27日～11月5日に本館にて企画展を開催しました。テーマは仙台藩で発生した御家騒動「伊達騒動」で、文学研究科教員の協力を得ながら実施しました。歌舞伎「伽羅千代萩」や小説「樅ノ木は残った」でも有名な出来事について、当時の人々が書き残した文書を中心に辿りました。企画展後にオンライン展示特設も公開しました。



オンライン展示特設サイト

日本語版



<https://sites.google.com/tohoku.ac.jp/date-dispute/>

英語版



<https://sites.google.com/tohoku.ac.jp/date-dispute-en>

2023年
10月27日(金)～
11月5日(日)
(開催時間 10:00～17:00)
東北大学附属図書館
本館1F多目的室
〒980-8586 宮城県仙台市青葉区川戸2-1-1
※入場無料

令和5年度企画展

伊達騒動

仙台藩で発生した御家騒動、「伊達騒動」。演劇や小説で有名なこの出来事を、当時の人々が書き残した文書により辿っていきます。

後日オンライン展示開催予定
公開され次第、附属図書館1Fでお知らせいたします。
<https://www.library.tohoku.ac.jp>

SDG s 展示

- 本館展示（本館メインホール）
留学生コンシェルジュのメンバーが
SDGs17の目標に沿って、図書を選び、
解説を作成し、展示しました。
期間：2024.1.17（水） - 2.12（月）

- 青葉通地下道ギャラリー
本館展示終了後、青葉通地下道ギャラリー
（青葉通・東二番丁交差点地下道内）に
会場を移しパネル・動画を展示しました
期間：2024.2.15（木） - 2.28（水）



本館メインホール



青葉通地下道ギャラリー



東北大学附属図書館

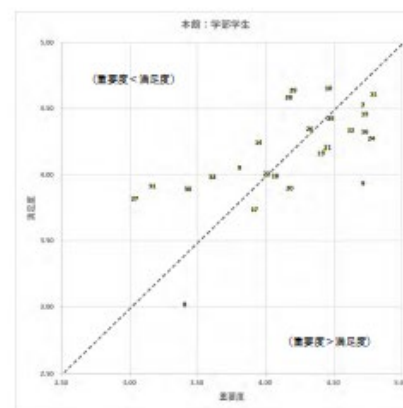
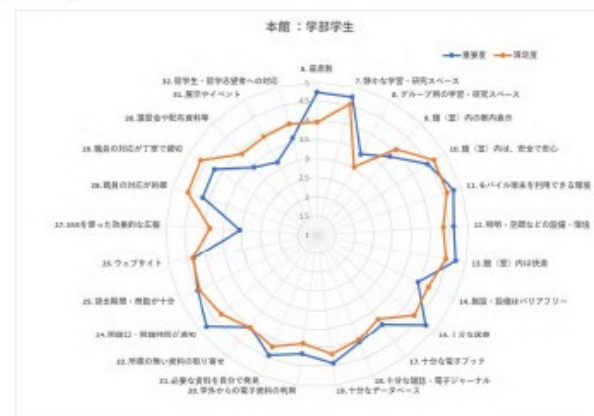
自己点検・評価報告書

2023(令和5)年7月

第3部 利用者アンケート編

3.3 本館

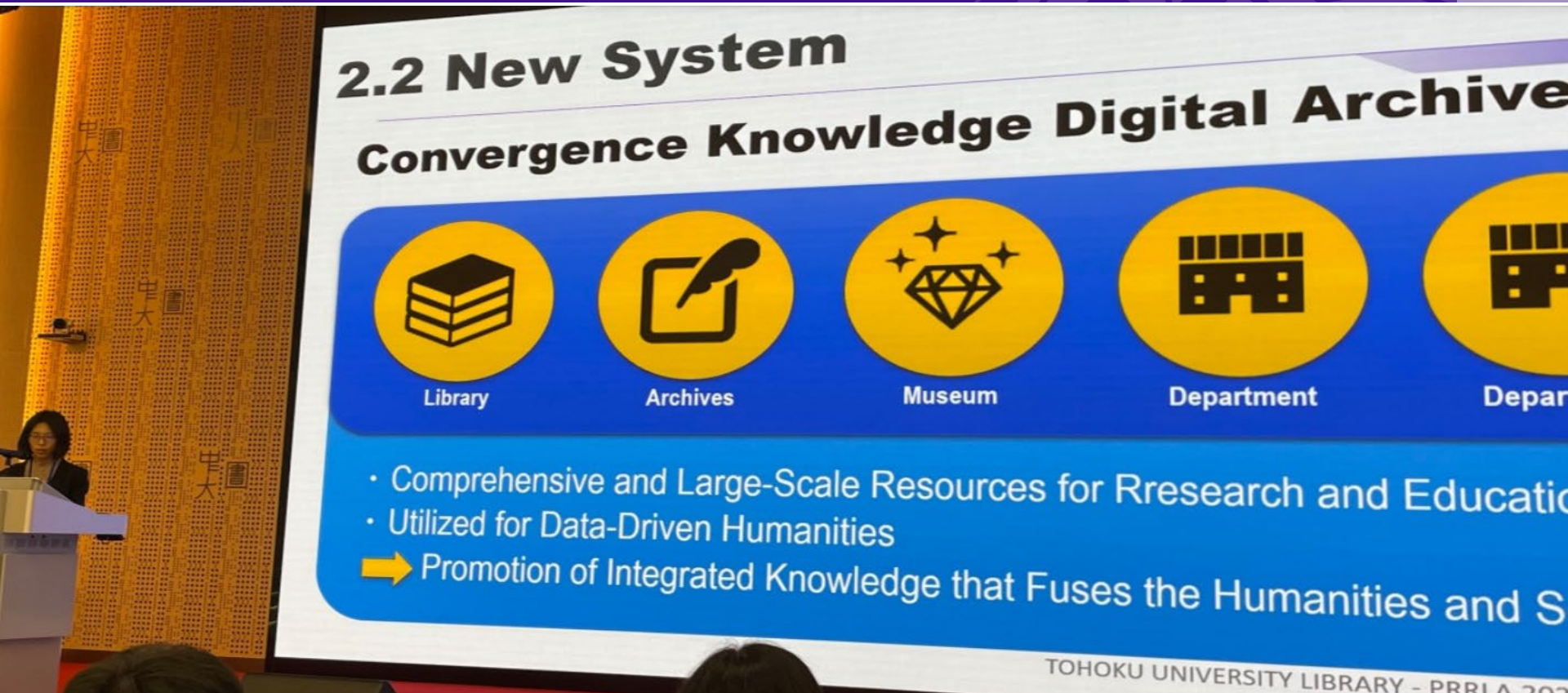
3.3.1 学部学生



- 凡例
- 4. 座席数
 - 7. 静かなスペース
 - 8. グループ用スペース
 - 9. 案内表示
 - 10. 安全安心
 - 11. モバイル端末
 - 12. 照明・空調
 - 13. 快適
 - 14. バリアフリー
 - 16. 図書
 - 17. 電子ブック
 - 18. 雑誌・電子ジャーナル
 - 19. データベース
 - 20. 学外からのアクセス
 - 21. 資料の自力発見
 - 22. 図書・論文の取寄
 - 24. 読書日・時間
 - 25. 貸出期間・冊数
 - 26. ウェブサイト
 - 27. SNSによる広報
 - 28. 読者の対応が的確
 - 29. 読者の対応が丁寧
 - 30. 講習会・配布資料
 - 31. 展示・イベント
 - 32. グローバル化対応

https://www.library.tohoku.ac.jp/about/files/jikoten2023_rev2.1.pdf

2017-2022年度の6年間の図書館の活動総括し「自己点検・評価報告書」を公開しました。外部評価も実施、公開準備中です（報告事項5）。



中国の深圳市中山大学（英語名称：Sun Yat-sen University）で開催されたPRRLA（Pacific Rim Research Libraries Alliance:環太平洋研究図書館連合）総会で、渡邊愛子閲覧係長が、現在構築中の「総合知デジタルアーカイブ」についての事例報告を行いました。

※ PRRLA総会で事例報告を行うのは、今回で4回目となります。

※ 2025年総会は、当館がホストを務める予定です。

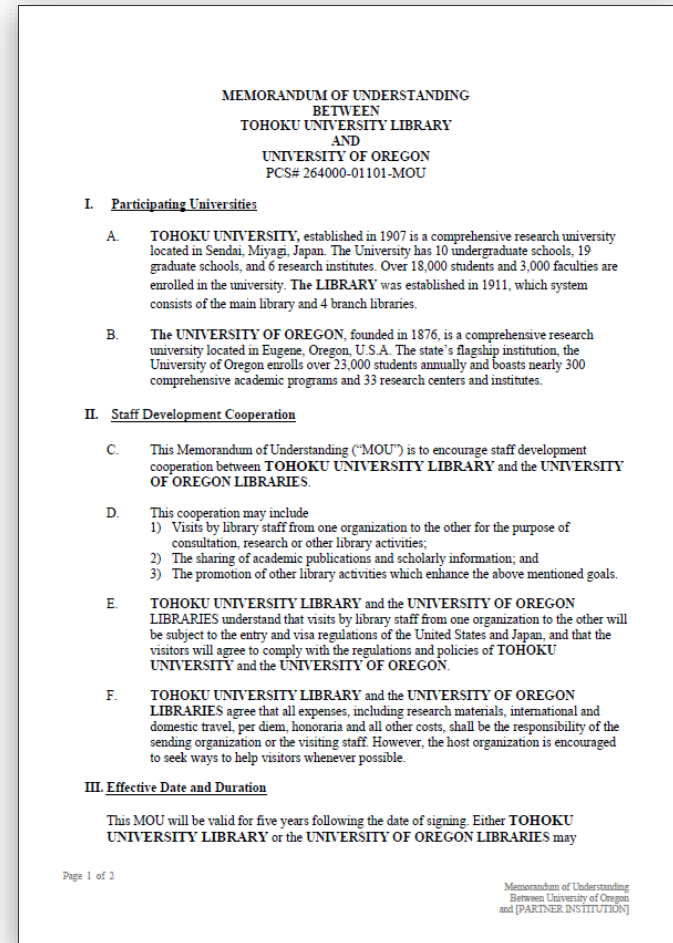
プログラム → <https://pr-rla.org/annual-meetings/2023-shenzhen/>

オレゴン大学図書館との連携協定

- オレゴン大学図書館（Oregon University Libraries）との間で、国際的な人材交流や業務交流のための覚書を取りかわしました。（令和5年度第2回附属図書館商議会（R5.10.26開催）承認）
- オレゴン大学図書館はPRRLA加盟館でありその枠組みを活用し、海外図書館との連携を図ります。

（協定内容）

- 1) 相談、調査、その他の図書館活動を目的とした、一方の組織から他方の組織への図書館員による訪問
- 2) 学術出版物および学術情報の共有
- 3) 上記の目標を向上させるその他の図書館活動の推進



片平キャンパス図書グループ ※詳細は報告事項1

●片平キャンパス図書グループの設置

令和6年3月片平地区部局間で「片平キャンパス図書グループに関する申合せ」締結。「片平キャンパス図書グループ」として各部局の図書室等がバーチャルな形で連携。

参加部局：法学研究科、生命科学研究科、金属材料研究所、
流体科学研究所、電気通信研究所、多元物質科学研究所

●期待される効果

- ・利用者への情報提供：グループで連携することにより効果的に実現
- ・セミナー等企画：単独では難しかったセミナー等の企画実施の実現
- ・情報の共有：業務について共有することで、業務やサービス均質化
- ・業務相互サポート：図書業務に関する情報提供・助言等の実現
- ・利用者のニーズ把握：アンケート実施・情報交換により、片平地区の利用者ニーズを適切に把握

●附属図書館の役割

- ・グループの活動が円滑に行われるよう助言・支援
- ・従来からの図書業務サポートは継続
- ・片平キャンパスの図書業務の在り方について継続検討、必要に応じて図書グループ、各部局事務部と連絡調整

「吾輩は羊羹好きな猫である」2万箱突破



令和4年9月に東北大学創立115周年・総合大学100周年を記念して発売された、白松がモナカ本舗とのコラボ羊羹「吾輩は羊羹好きな猫である」が令和6年1月に販売総数2万箱を突破しました。附属図書館所蔵の漱石文庫にちなんだ商品で、大学にロゴマーク利用料が入るほか、売上の一部は「漱石文庫」保存のために附属図書館へ寄附されます。